

特集

---

PC構造物の歴史散歩

---

# はじめに

——本特集号の主旨説明——

出 雲 淳 一\*

昭和 26 年に日本最初のプレテンション方式の橋梁が築造されて以来、ほぼ 40 年近い歳月が過ぎた。その間、我が国におけるプレストレストコンクリートに関する技術の進歩はすさまじく、最近ではスパン 250 m を超える PC 斜張橋、大容量 PC タンク等の大型構造物が建造されるまでに至っている。プレストレストコンクリートに携わる技術者にとって、その間の歴史をたどることは興味深いばかりでなく、プレストレストコンクリートに対する認識を新たに思うられる。すでに、プレストレストコンクリートの歴史に関する文献<sup>1),2)</sup>も見受けられるが、今回は別の観点からプレストレストコンクリートの歴史について特集を組むことにした。すなわち、これまでに築造されたプレストレストコンクリート構造物を実際に訪れ、その構造物が建造された当時の技術的な背景、設計思想等を再認識するような目的で編集を行うことにしたのである。

今回の企画では、まず構造物別にその歴史的な変遷をとらえて解説を加えることにした。その後、プレストレストコンクリートの発展の歴史において代表的な構造物の紹介を年代順に行った。また、巻末には今回とりあげた構造物の諸元を整理し、一覧表にして掲載した。紙面の都合上、紹介できる構造物には限りがあり、ここでは紹介する構造物の数を 100 件に制限することにした。選定にあたっては、土木学会、あるいはプレストレストコンクリート技術協会等の賞を受賞した構造物、建設当時その建設過程において著名な構造物、あるいは現在の設計・施工にも大きく影響を及ぼしている構造物、および現存していて現地見学が可能な構造物等の条件を考慮

して構造物の選定を行った。

構造物の選定に当たっては、できる限り客観的な立場で行ったつもりであるが、限られた人数の編集委員で、限られた時間の中で作業を行ったために、今回の選定結果に対して一部の読者から、お叱りを受けるやもしれない。しかし、そのような貴重なご批判ならびに今回の企画にたいするご意見等は、是非お聞かせ願いたいと思っている。編集委員にとっても今後の企画を行う励みになるかと思われるからである。

最後に、今回の企画において、若干ガイドブック的な要素を含んでいることも否めないが、できる限りカラー写真や図表を取り入れて、わかりやすく、見るだけでも楽しく、しかもプレストレストコンクリートの歴史に触れられるように工夫を凝らしたつもりである。また、紙面で紹介した構造物に関する情報量は、できる限り少なく抑え、読者の必要性に応じて、構造物に関する情報の入手が可能なように編集を配慮した。この企画編集に携わった一人としては、今回の特集号が、ある定期刊行物の一つとして本棚に飾られるのではなく、永久保存的な存在として常に携えて頂けるようなものとなれば幸いと考えている。

## 参 考 文 献

- 1) 野口 功：技術展望 プレストレストコンクリートの歴史…鉄道構造物，土木学会論文集，No. 442，Vol. 17，1992. 2
- 2) 渡辺 明：技術展望 プレストレストコンクリートの歴史…道路構造物，土木学会論文集，No. 451，Vol. 17，1992. 8

\* Junichi IZUMO：関東学院大学 土木工学科 助教授